

将来を見据えた地域課題解決に向けた まちづくりへの取組について

JR南武線連続立体交差事業

平成30年度～ 用地測量、概略設計、環境影響評価

平成32年度 都市計画決定

平成33年度～ 事業認可、用地取得、工事着手

連続立体交差事業完了まで時間を要することから、
将来を見据え、地域課題解決に向けた取組が必要



●平間駅前踏切の混雑緩和の取組

●向河原駅踏切の混雑緩和の取組

平間駅踏切の混雑緩和の取組

取組内容

既設人道跨線橋の利用促進を図るために平間駅前踏切に案内看板を設置

効 果

既設人道跨線橋の利用促進により、踏切を利用する歩行者の安全性の向上や混雑度の改善

(案内のチラシ配布、駅構内掲示版へのポスター掲示、新川崎地区の企業に迂回利用促進に向け協力の要請なども併せて実施(平成30年3月))



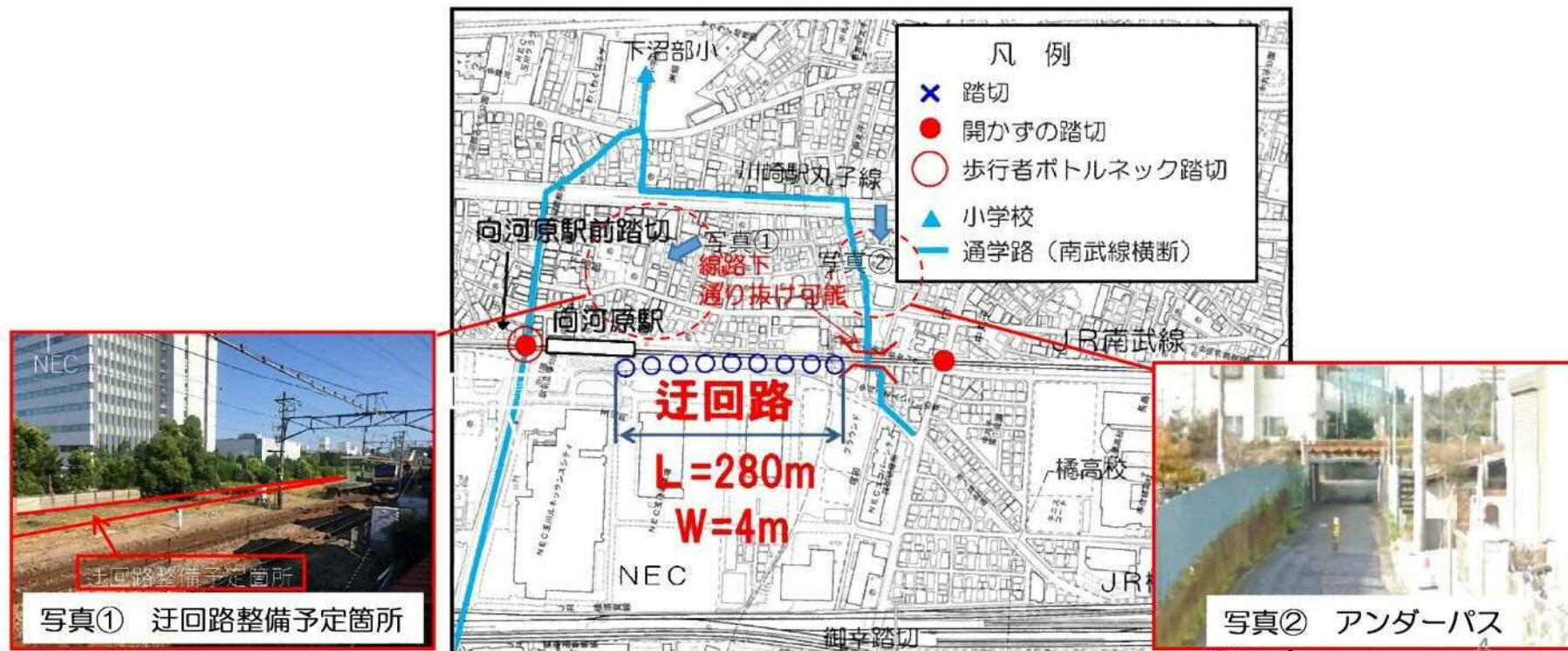
向河原駅踏切の混雑緩和の取組

取組内容

歩行者・自転車専用の迂回路の整備（平成31年4月供用予定）

効 果

迂回路の利用により、朝ピーク時に踏切を利用する自転車の台数が減ることで、下沼部小学校の児童を含む踏切を利用する歩行者の安全性の向上や混雑度の改善



JR南武線連続立体交差事業

平成30年度～ 用地測量、概略設計、環境影響評価

平成32年度 都市計画決定

平成33年度～ 事業認可、用地取得、工事着手

連続立体交差事業完了まで時間を要することから、
将来を見据え、地域課題解決に向けた取組が必要



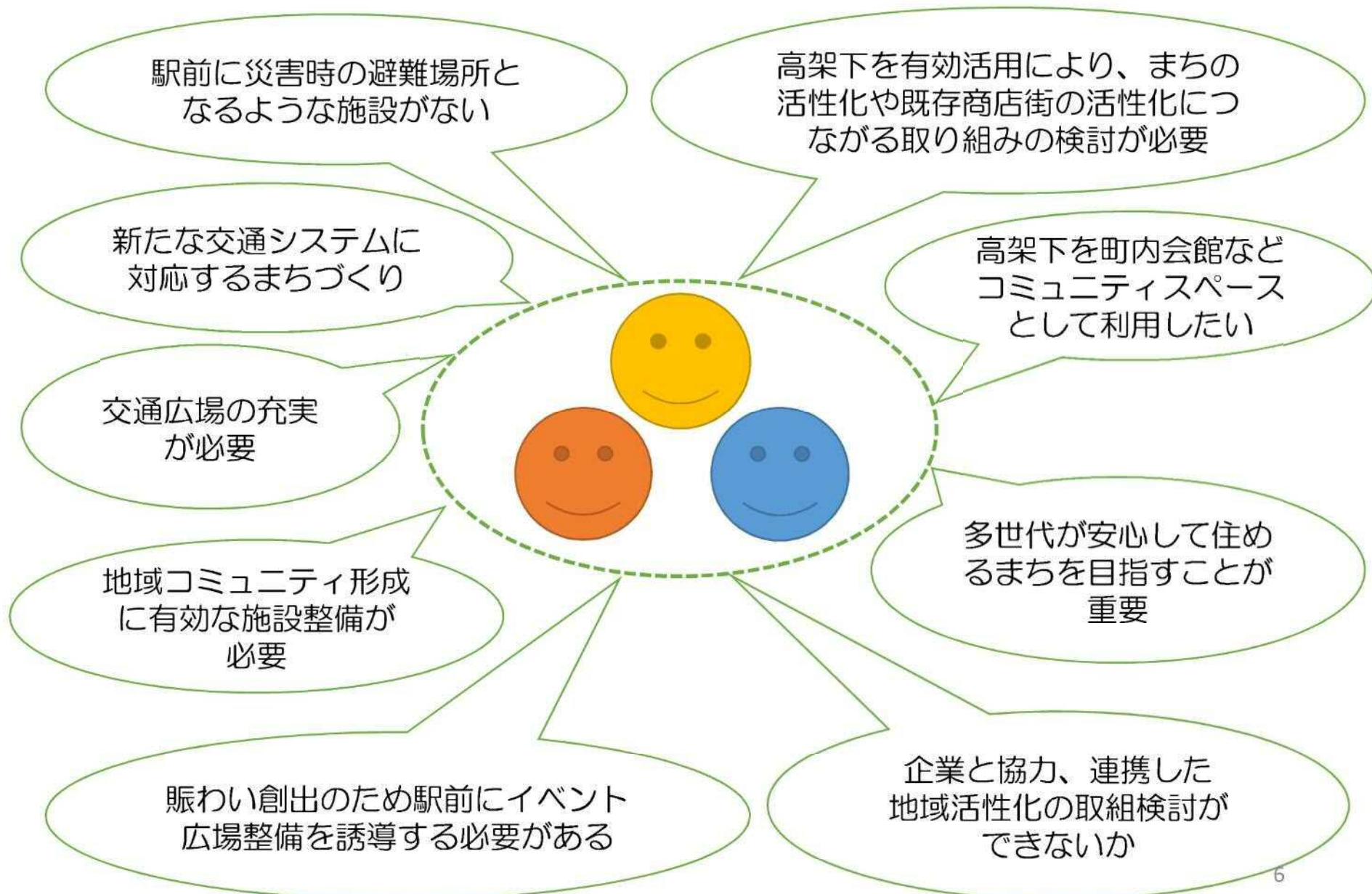
南武線沿線まちづくり

「南武線沿線まちづくり方針」にリーディングプロジェクトを位置付け



南武線沿線の将来像を見据え、今できることから取組を実践

H29年度・地域勉強会でのまちづくりに関する主なご意見



まちづくりの方向性のキーワード



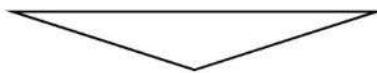
地域の魅力向上に資する取組

○現状（特性）

- ・各駅の乗降客数は年々増加
- ・数多くの企業が沿線地域に集積
- ・駅前に商店街が立地
- ・自然、歴史、文化的な地域資源が豊富
- ・地理的な優位性（川崎や小杉、横浜や都内へのアクセス性）

etc.

⇒ 通勤・通学のために使用するだけの駅ではなく、
地域特性を活かした、まちの魅力を高める取組が必要！！

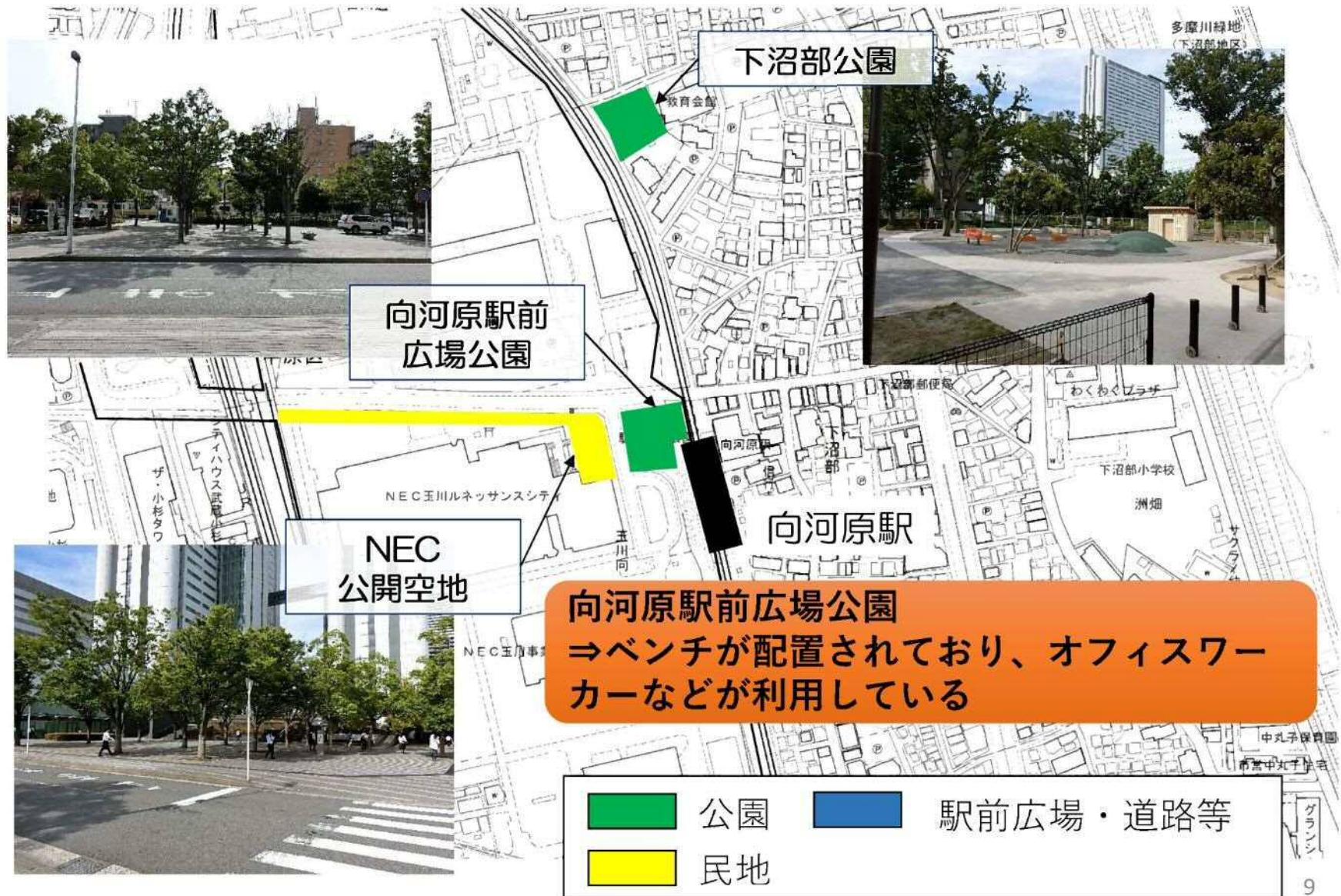


各駅周辺における駅前空間の利活用に注目



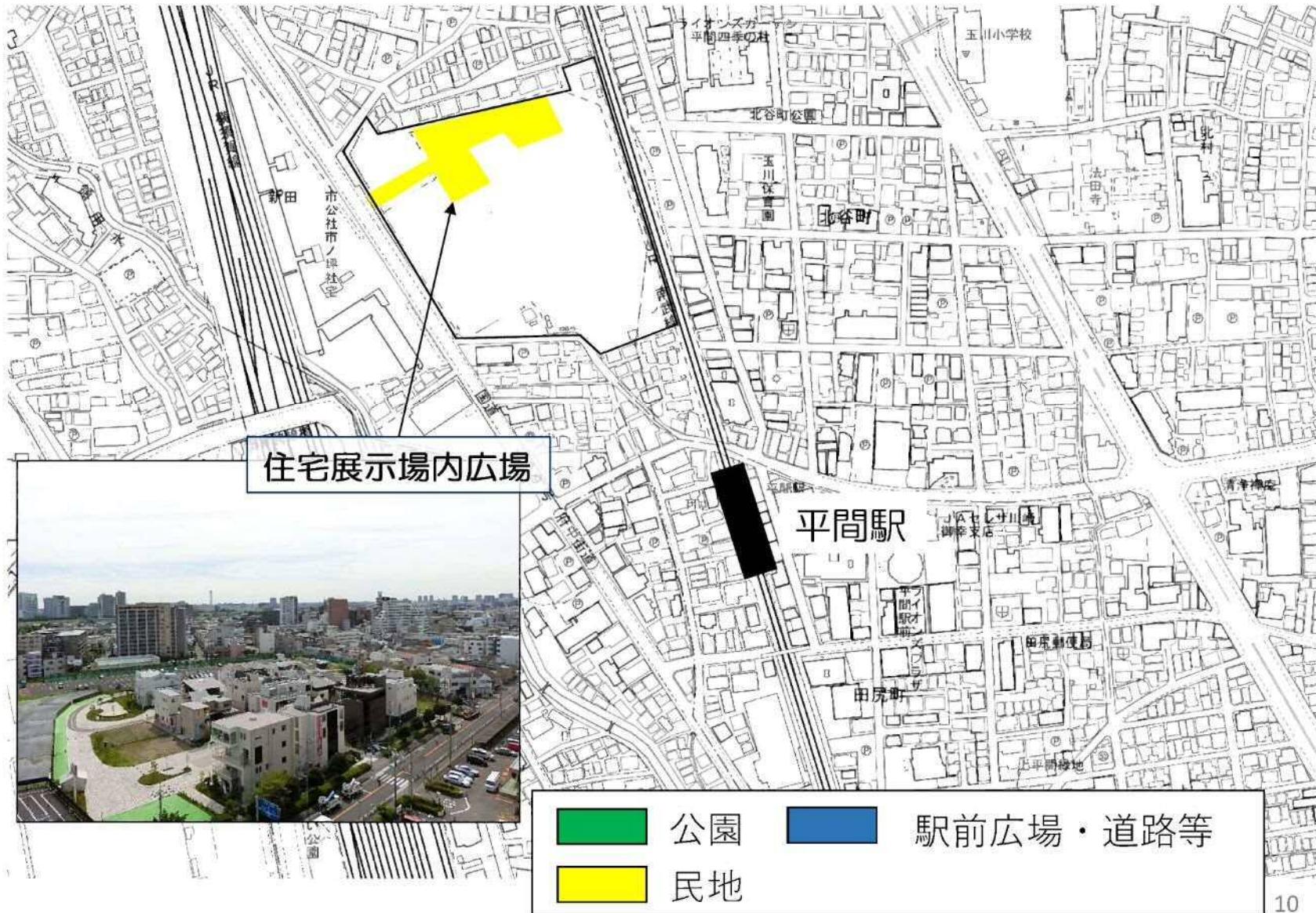
各駅周辺における駅前空間の状況は？？
(向河原駅・平間駅・鹿島田駅周辺)

向河原駅周辺地区の状況



平間駅周辺地区の状況

駅周辺に広場などの公共空間がない



鹿島田駅周辺地区の状況



- 平間駅周辺地区
⇒ 駅前空間がない

- 鹿島田駅周辺地区・向河原駅周辺地区
⇒ 駅前空間があるが、交流や賑わいの場として
利用されている空間と利用されていない空間が存在



駅やまちを訪れる人が、有意義に時間を過ごせ、居心地が良い空間 ≒ “居場所づくり”が大事



“居場所づくり”が
地域の新たな価値の創出につながる

居場所づくり（公共空間のオープン化）の他都市事例

駅周辺の広場の利活用

道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

事例①

駅周辺の広場の利活用

道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

あそべるとよたプロジェクト (2015~)

駅周辺の公と民の7つの広場について、市民・企業・行政が一体となってアイデアを出し合い、「やってみたいこと」を実施しながら、まちなかを人の活動に開いていく愛知県豊田市での取組。

広場を利用する場合、まちなか広場窓口（あそべるとよた推進協議会事務局）に使用申請し、「まちなか広場つかいこなし講座」を受講した上で、各利用者の責任で広場利用をする仕組み「あそべるとよたDAYS」が整備されています。



①まちなか広場が毎日使用できます!

通年で使えます!



事例②

駅周辺の広場の利活用

道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

みなまきラボ (2016~)

大学生や様々なクリエーターが参加し、行政や地域の住民とともに地域の魅力を発見し、発信していく拠点とする、横浜市の相鉄線南万騎が原駅周辺での取組。

駅前広場を「みんなのひろば」とし、複数のパートナー団体や設計事務所が週替わりに担当し運営する仕組みが整備され、駅前広場を中心とし、時にはまち全体で、イベントやワークショップが行われています。



事例③

駅周辺の広場の利活用

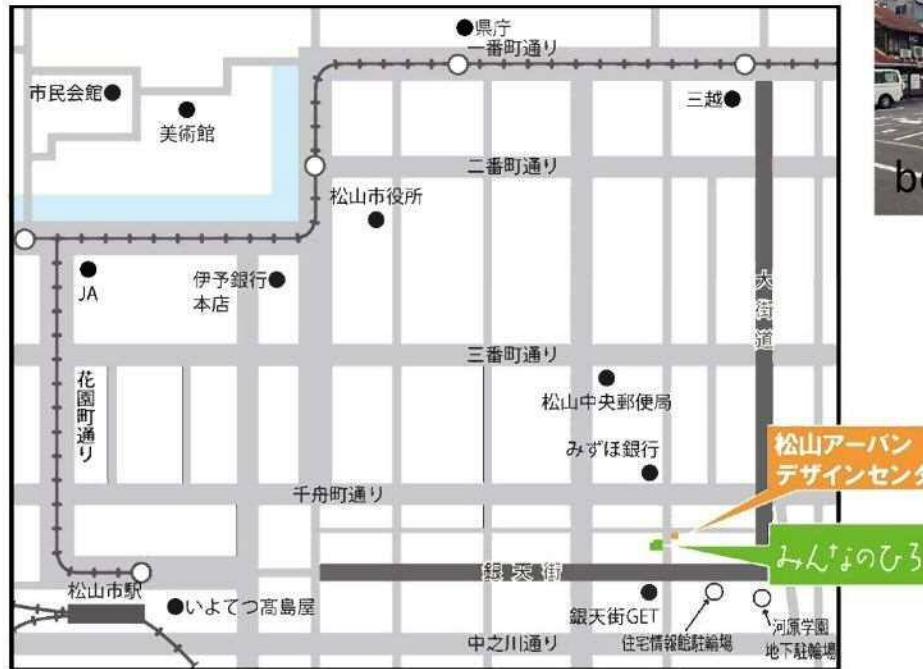
道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

松山みんなのひろば (2014~)

まちなかに増える低未利用地を活用し、パブリックスペースとして、人の居場所に変えていく社会実験の一環として行われている、愛媛県松山市での取組。

まちの中心部の路地裏にあったコインパーキングを「みんなのひろば」として活用するとともに、その目の前の空き店舗をまちづくりの拠点「松山アーバンデザインセンター」にリノベーションし、学生や市民がまちづくりを学びながら、その中で話あわれたことをひろばでイベントで実現させていく仕組みが形成されています。



事例④

駅周辺の広場の利活用

道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

厚木FLAT PARK (2017)

歩いて楽しいまちを実現させる一環として、小田急本厚木駅近くの公園を活用し、まちなかで居心地のいい場所、「サードプレイス」を創る試みとして、厚木市で行われた社会実験。

公園に人工芝を敷き、テーブルやベンチなどを仮設で設置し、また、併せてワークショップなどのイベントを開催することで、まちなかでゆっくり過ごせる居場所を市民に体感してもらい、その意義・効果を感じてもらいながら、市民のニーズを探ることを目的に行われました。



事例⑤

駅周辺の広場の利活用

道路や通りを活用したイベント

民有地の利活用 など

市駅 “グリーングリーン”プロジェクト (2014~2017)

駅前の街路空間からまちの再生を目指す、和歌山市における民間主導で行われた社会実験。

南海電鉄和歌山市駅に続く車道半分を3日間占用、芝生を整備し、朝ヨガ、ライブ、キャンプなどといった多彩なイベントを開催するとともに、地元の夏祭り、商店街で定期的に開催されるマルシェとの連携や、和歌山城の堀川を活用した社会実験「わかやま水辺プロジェクト」との連携など、まちなか全体での賑わいや回遊性を創出する仕掛けとなっています。

また、運営費をクラウドファンディングで調達するなどの試みもなされています。



公共空間のオープン化の事例における効果

地域の住民の意見を反映した、
広場空間や施設の整備ができる

地域の住民が実際に体感することで、
様々な活動への理解が得られやすくなる

新たな取り組みへの動きや、
担い手が生み出される可能性

リーディングプロジェクト ～公共空間の利活用について～

- 地域の魅力向上に向けて、官地・民地問わず、駅前空間を積極的に利活用
- 行政の取組ではなく、地域の町内会・商店街、地元企業など、地域と連携した取組として実践
- 不定期のイベントだけにとどまらず、日常的な利用にしっかりと目を向けた利活用
- 人の流れ、行動パターン、地域の状況などを把握し、実験的な取組などにトライしながら最適な利活用方法を模索
- 単発の取組ではなく、駅周辺の大規模な土地利用転換や連続立体交差事業の実現も見据え、長期的な取組としての枠組みの確立

具体的な取組について（案）

○ 鹿島田駅周辺地区に注目

理由

- 駅前空間が多く点在しており、様々な可能性を秘めている
- パークタワー新川崎内にある「新川崎タウンカフェ」の運営母体である、(株)イータウンを中心に、『まちづくり活性化のための人材発掘と育成事業』の取組が鹿島田駅周辺で行われている
(平成30年度 幸区市民提案型協働推進事業として選考)

鹿島田駅周辺地区



具体的な取組について（案）

○ 鹿島田駅周辺地区に注目

理 由

- 駅前空間が多く点在しており、様々な可能性を秘めている
- パークタワー新川崎内にある「新川崎タウンカフェ」の運営母体である、(株)イータウンを中心に、『まちづくり活性化のための人材発掘と育成事業』の取組が鹿島田駅周辺で行われている
(平成30年度 幸区市民提案型協働推進事業として選考)



○ 大規模な低未利用地における将来の土地利用転換を見据え、駅前空間の利活用についての具体策を検討、実験的に取組を実践